

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	経年変化をみたときに年々上昇傾向にある。市の平均正答率を上回る結果が出ており、知識・技能の定着が図れてきている。しかし、個人差は大きく、「学びに向かう力等」の「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」の質問に対しての肯定的な回答の割合は、約6割の結果である。今後個別に必要な支援を家庭の協力のもと講じていく必要がある。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査結果の国語・数学における、思考・判断・表現の低下がみられたため、教科横断的な視点として、表やグラフの特徴や傾向をとらえて、言葉や数を用いて表現する活動を重点的に取り組んでいきたい。「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目においては1年生90.3%、2年生91.6%、3年生95.5%と肯定的な回答の割合が高い数字であったので、来年度も主体的・対話的で深い学びの取り組みをより改善し、思考・判断・表現力を高めていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、1年88.3%2年89.6%、3年生91.1%と肯定的な回答の割合が高い。しかしながら「家で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的な回答が1年生が55.2%(昨年63%)、2年生が57.8%(昨年48%)、3年生が60.7%(昨年72%)と学年があがるにつれ上がってきてはいるが、昨年度と比べると2年生以外は下がっている。このことから、家庭学習の定着につなげるため、家庭との深い連携の中で、手立てを講じていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	知識・技能R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において2pt向上させる。 R5年度全国学力・学習状況調査において、国語の正答率を70%、数学の正答率を55%を上回る。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。その際、生徒の学習履歴を確認し、定期テスト前に補習を行う。
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。 R5年度全国学力・学習状況調査において、国語の「話すこと・聞くこと」において、70ptを上回る。	⇒ 生徒が作品・レポート等に取り組む際、教師側の評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスに対するコメントを付記して、評価する。 「ミライシード」や「Teams」など活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査とさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 授業において、生徒とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

次年度に向けて  
(3月)

目標・策の設定  
(4月)

年度末評価  
(2月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率は、R4年度の自校結果と比較して1年生は+13.6pt、-0.6ptで2年生は+5.8pt、+0.2ptであった。目標の2pt向上させる点では、国語は大幅に達成することができたが、数学においては達成することができなかった。しかし「学びに向かう力」の「数学は好きですか」が、他教科と比べると非常に高いので今後の向上は期待できると考える。R5年度全国学力・学習状況調査においては目標の正答率を上回ることができた。	B
思考・判断・表現	当初の方策どおり、「ミライシード」や「Teams」など活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図ることはできた。しかし、R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」は、R4年度の自校結果と比較して向上できたのは、1年の国語の+10.2ptのみで他は数値の低下がみられた。R5年度全国学力・学習状況調査において、国語の「話すこと・聞くこと」においては目標の70ptを上回ることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査とさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上の目標に対して、1年生が85.5%2年生が89.6%、3年生が91.1%と学年があがるにつれて割合が向上しており、主体的・対話的で深い学びが定着しつつあると考える。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語では、言語や情報の扱いにおいて全国平均を4pt以上上回ることができたが、言語文化に関してのみ1pt下回った。平均正答率は73%で目標の70%を上回ることができた。数学では、関数が7pt上回り、数と式、図形とも5pt上回ることができた。しかしデータの活用のみ0.3pt下回った。正答率は55%で目標を達成できた。英語では、書くことが13pt、聞くこと、読むことがともに9ptとすべての領域で大きく上回った。それぞれの観点の評価においても2pt~12ptと幅はあるが、すべて上回ることができ着実に力を付けつつある。
思考・判断・表現	国語では、話すこと・聞くこと、書くことにおいて全国平均を4pt以上、上回ることができた。話すこと・聞くことの正答率も86%で目標の70%を大きく上回ることができた。評価の観点の部分でも73%と全国を4pt上回っている。数学では、思考・判断・表現が5pt上回る47%の正答率であった。英語では、8pt以上上回る47%の正答率であった。平成31年度と比較しても全国の正答率は8pt以上向上している。
主体的に学習に取り組む態度	普通の授業への取り組みの様子から、前向きに取り組む生徒の状況は感じられているが、全国学力・学習状況調査の、「1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対して、肯定的な回答をした割合が90%で全国平均の79%を11pt上回っている。目標では、80%以上としていたので達成できており、さらに策にのっとった主体的な学びを意識した授業を展開していきたい。

さいたま市学習状況調査

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+13.6pt、理科+13.6pt、社会+2.2pt、であった。国語、理科ではすべての領域で大幅に正答率が上がっている。数学に関しては-0.6ptとなった。数と式は正答率が上がったが、図形、関数の領域で正答率が下がってしまった。複数の情報の中から必要な情報を見つける活動や、異なる考え方をもちた人と協議して解決策を見出す活動に積極的に取り組み、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
中2	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語+5.8pt、僅かではあるが、数学+0.2pt、理科+0.7pt上回った。しかしながら「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語-8.3pt、数学-2.3ptで理科-6.7pt、社会-12.8ptあった。自分の考えをもたせる指導を積み重ね、考え方を言葉で説明する活動に重きをおくことで思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
中3	「主体的・対話的で深い学び」のそれぞれの質問項目のすべてにおいて肯定的な回答の割合が91%を越えていた。特に、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の問いには95.5%が肯定的であった。主体的・対話的で深い学びの学習に積極的に取り組む姿勢が大変よく見られる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし